



4月

カトリック麴町教会

MAGIS

マジス = 「より、もっと、さらに」

2026年度教会テーマ

ひとつになろう キリストのうちに ~ともに歩む教会へ~
Journeying Together as One Community to Jesus

主のご復活のお慶びを申し上げます

主任司祭 高祖敬明

「わたしたちは…主イエス・キリストによって神との間に平和を得ており、このキリストのお陰で、今の恵みに信仰によって導き入れられ、神の栄光にあずかる希望を誇りにしています」
(ローマ5:1-2)

「希望の巡礼者」を motto に、大勅書『希望は欺かない』をもつて教皇フランシスコが開会を公布した聖年は、新教皇レオ十四世によって本年1月6日に閉じられました。

聖年に先立って教皇フランシスコが開始したシノドス（世界代表司教会議第16回通常総会）は、各小教区がヒ



「麴町教会100周年プラン策定準備委員会」が検討を始めた。同準備委員会の提言を受け、今年の主の復活の祭日後、「麴町教会100周年プラン策定委員会（略

ジョンと司牧計画（パストラール・プラン）中長期計画）を作成するよう求めています。私たちの麴町聖イグナチオ教会も、シノドスが描く「ともに歩む教会」交わり、参加、宣教」に学び、聖霊による導きを識別しながら「イエスとともに歩む」司牧計画の策定を推進します。

私たちは3月22日に麴町教会創設90周年を祝い、4月17日には聖イグナチオ教会（旧聖堂）献堂77周年を迎えます。10年後、麴町教会創設100周年を祝う頃、私たちの教会の「こうあってほしい」姿を具体化し、その実現に向けた具体的課題を明確にするため、昨年3月、

称「100周年プラン」が発足します。その基本理念は、今年度の教会テーマと同じ「ひとつになろう キリストのうちに」とともに歩む教会へ「Journeying Together as One Community to Jesus」です。

昨年10月に実施の主日ミサ教勢調査によれば、外国語（英語、スペイン語、ベトナム語、インドネシア語、ポルトガル語、ポランド語）によるミサ参加者数は、日本語ミサのそれを超えました。この理念には、そうした現状を踏まえ、言葉や国籍、世代や文化背景の違いを越えて、すべての教会員とともに歩み、キリストの光を輝かせることのできる教会にするために、という願いと期待が込められています。

この願いと期待は、6か国語で作成され、折に触れて唱えている「ともに歩む教会の祈り」にも反映しています。国際化が一段と進みます。言葉や国籍、世代や背景の違いを越えてキリストの食卓を囲む私たち一人ひとりが「希望の巡礼者」であり、「イエスとともに歩む教会」の一員であって、「光と塩」と

して社会に仕えることのできる恵みを祈っています。

「100周年プラン」は、外国籍信徒を含む30代から70代までの、12人の第一期委員（任期2年）が選ばれ、当教会の特性と時代や地域の環境変化を考慮しながら聖霊の導きを識別し、教会全般の導きを識別し、教会全般（信仰と霊性・組織・運営・活動および施設設備・財政等）に関わって、共同体の霊的刷新と構造改革を進める道筋を提案していきます。

これを推進するためには、皆さんの積極的な協力が協働が欠かせません。一緒に祈りと活動、霊的会話と識別を重ねながら、活き活きとした「交わり、参加、宣教」の教会となる司牧計画づくりに努めてまいります。

教会報 MAGIS 4月号

+	2026年度教会テーマ	P2
+	麴町教会100周年プラン策定準備委員会最終報告	P3
+	ペドロ・アルペ神父の列福祈願ミサ（教会活動連絡会便り）	P3
+	~講座連絡会~	P4~5
+	教会行事	P5
+	タラ友の会 活動報告	P6
+	Family of St Ignatius ~英語圏から~	P7
+	ご帰天 シスター マルセラ ロサス モラレス	P7

【共同祈願】

† 復活祭 (4月5日)

私たちは四旬節の間、洗礼志願者とともに
誘惑と闘いながら祈ってきました。
復活のキリストの希望の光に照らされて、
神さまの喜ばれる道を
新たに歩いていくことができますように。
そして世界の平和のために
祈り続けられますように。

† 復活節

(4月12日~5月10日)

主の復活を祝った私たちが、
キリストに倣い、
声を上げられない人々、
見えないものとされている人々に、
キリストとともに
心を寄せていくことができますように。

宣教司牧評議会より

2026年度教会テーマ

2025年度信徒代表

新年度テーマへの思い

この記事をお読みくだ
さっている方は、教会テーマ
のことをどのように感じてい
らっしゃるでしょうか。私は
評議員の立場になって、
ようやく教会テーマを
思い出し
ました。それ
までは、有
益な言葉が
並んでいる
が、自分
はあまり関
係ないと正
直、思っ
ていました。今
は皆さまに
伝える立場
ですから、
忘れることはありませ
んし、
もつと広め、関心を持っ
ていただくことを考
えています。

2026年度教会テーマ

ひとつになろう キリストのうちに

~ともに歩む教会へ~

Journeying Together as

One Community to Jesus

で、皆さまの目に触れる機
会も増えると思えますし、ご
協力をお願いいたします。
「麹町教会100周年プ
ラン策定委員会」がこの4月
から発足しますが、この委員
会の基本
理念とし
ていること
も、「ひと
つになろう
キリストの
うちに」と
もに歩む
教会へ」
です。

です。このテーマに沿っ
て内容を考えていきますの

としていたいただきたいです。
特に、「教会活動連絡会議」
や「年次報告会」、「教会祭」
その他の行事でも、このテー
マを具体化する場になると
思います。また、「ともに歩

む教会の祈り」を唱えている
と、このテーマを連想するの
は私だけででしょうか。

教会テーマが示す道しるべ

評議員で話し合ったこと
を教会テーマの言葉に沿っ
て、少し説明を加えます。

・「ひとつになろう」

自分たちの活動グルー
プだけという枠組みを越えた
「ひとつになろう」を考
えています。それは、日本人の共
同体にだけ留まることなく、
他の言語の方との「国際化」
の意味を含んだものと考え
てよいかと思えます。もちろ
ん、すぐに達成できるもので
なく、人と人とのつながり・
協力が必要です。文化や風
習の異なる方々との協働は
口で言うほど簡単ではあり
ませんが、イエスさまは望ん
でいらっしゃるのではないで
しょうか。

・「キリストのうちに」

自分たちの行いたい活動
をするのではなく、イエス・
キリストが望んでおられる
ことを私たちが奉仕する
という視点が大切だと考
えています。このことを元
に行動するならば、奉仕の質
も高められるであろうと信

じています。またさらに、教
会の外へ出かけて行くとい
う視点が加わると強い味方
になると思います。他の教会
の方との連携や外で助けを
求めている人に寄り添うこ
が考えられます。

・「ともに歩む教会へ」

語尾に「へ」を付けること
で、歩いていこうという自ら
動くことを期待しています。
最後に

別の視点からこのテーマ
を見れば、教会の pastoral
プラン(司牧計画)としての
表現でもあります。

私たちは何かを一方的に
決めるのではなく、これから
も「ともに祈り、ともに語
り合い、ともに識別していく」
ことが必要なのでしょう。

単なる掛け声だけに終わ
らないように、皆さまのご協
力をいただきながら、お一人
おひとり神さまから呼びか
けられている者として心を
新たに、神さまのみ旨を
果たす際のキーワードとし
て心に留めていただけたら
幸いです。

*参考『シノドスハンドブック』日本カ
トリック司教協議会シノドス特別チ
ーム 2024年 カトリック中央協議会発行

最終報告

麹町教会100周年プラン策定準備委員会

2025年3月に発足した「麹町教会100周年プラン策定準備委員会（中期計画策定準備委員会から改称）」は、この4月をもって本委員会にバトンを渡します。

この一年、「教会をより参加型で宣教的にするため：の、霊的刷新と構造改革の道」に、信徒の皆さんとともに向かおうとする本委員会の準備として、当教会らしいビジョンを定めてプランを立て、取り上げるべき課題の検討や検証・刷新手段の計画・提案、資料の収集などを行ってきました。

2025年6月に発行された『シノドス流の教会— 交わり、参加、宣教—シノドス最終文書』には、第二バチカン公会議以降に目指してきた教会像が、現在の生きた教会の姿で表されています。ここにシノドス的な教会の在り方を学んで分かち合い、識別し、回心から刷新への「パストララルプラン」の方向性やアイデアを次のような

- 項目にまとめました。
 - I 教会運営体制
 - II 共同体における交わりと奉仕活動
 - III 教会施設・財務
 - IV 教会DX基盤
 - V 秘跡・典礼
 - VI インターナショナル
 - VII その他の項目
- 右記の項目を含め、創設の経緯・一年の活動・「シノドス流の教会」からの学び・課題設定裏付けなど「準備委員会報告書」として編纂しました。その他に、「麹町教会100周年プラン策定委員会について（要項）」を作成し、宣教司牧評議会にて承認を得ました。
- また、当委員会の重要な課題である「ともに歩む教会」建設始動の「しるし」として、①聖歌集「ともに歩むおう」の更新検討の決定、②「ともに歩む教会の祈り」の6か国語とローマ字の一覧カードの作成・教会祭など各所での配布・各行事や会議での唱和の推進、③「信仰のしおりアンケート」をシ

ル・紙・Webの3種類の方法で実施、改訂に向けて信徒の意見を求める、の3件を実施しました。

今後はたくさんの方々に認知され、信徒とともに歩む「麹町教会100周年プラン策定委員会」であることが望まれます。また、この一年の準備の間にも、教会の状況は変わりつつあることが実感されています。当準備委員会からの提案も具体的な項目については刻一刻と状況の変化が予想されます。信徒のこころを聴き、「たまもの交換」を行いながら、いつも聖霊の呼び掛けを中心として活動を続けていけるように願っています。

ペドロ・アルペ神父の

列福祈願ミサ

毎年アルペ神父を慕い集う

ペドロ・アルペ神父の葬儀には、日本から、当時のイエズス会日本管区長池長潤神父と森脇隆夫神父が参列されました。帰国後、山口教会出身の森脇神父が、山口・広島でアルペ神父と親交のあった当時在京の方々に声

をかけられ、クルトウルハイム聖堂で追悼ミサを捧げました。その日はアルペ神父の命日である2月5日に近い2月11日(祝)でした。これが、現在聖イグナチオ教会で毎年2月11日に開催される「ペドロ・アルペ神父の列福祈願ミサ」の始まりです。当初は信徒による草の根の活動でしたが、ローマ教皇庁が列福調査を開始したことを機に、イエズス会日本管区本部主催となりました。

アルペ神父の

とりなしを願って

今年で35回目となる列福祈願ミサには、佐久間勤イエズス会日本管区長の主司式のもと、多くのイエズス会員、アルペ神父にとりなしを願って大病から生還した方、神父が山口・広島で活動されていた頃から親交のある方、神父の生き方に倣いたいと願っている方など、さまざまな方が参加して行われました。

説教では、アルペ神父がイエズス会日本管区長の時に秘書を務められたホアン・アルテリヨ神父が、アルペ神父の人間味あふれる逸話を

語られました。偉大な指導者としての顔とは異なる、アルペ神父の驚くほど「天然」な一面が浮かびあがり、和やかな雰囲気にも包まれました。

共同祈願では、アルペ神父の生涯、特に神への忠誠と愛の行いを讃え、アルペ神父のとりなしを願いました。

祈りから行動へ

聖イグナチオ教会の活動グループ「アルペ神父の列聖を祈る会」では、アルペ神父の生涯や霊性を学び、私たち信徒も言葉と行いによって証しができるよう努めたという思いで、アルペ神父を知る方による黙想会や講演会を行っています。列福祈願ミサには、運営と聖イグナチオ教会での広報面で協力しています。



教会活動連絡会便り

2024年度の「教会活動連絡会議」で、「教会活動連絡会の機能・運営の強化」について、対話を重ねてきました。前号に引き続き、当教会にある連絡会を紹介いたします。

講座連絡会

神のみ言葉を聞くための

学びの場

「講座連絡会」は、当教会内で開催されている入門講座と信徒養成講座によって構成されます。メンバーは、各講座で講師を担当するシスター、神学生および信徒と、各講座のヘルパー・スタッフとして運営・管理を担当する信徒です。講座運営上の課題などを分かち合うほか、信徒と教会とを結び付ける場として一層の充実に向けた検討も行っていきたいと考えています。

入門講座は、初めてキリスト教にふれる方（洗礼を希望する方、キリスト教の基礎を学びたい方、イエスを知りたい方など）を対象としています。受洗者であつ

ても学び直したい方などにも門戸を開放しています。一年間で洗礼に必要なキリスト教の信仰を順序立てて学び、希望者には復活祭での洗礼の準備も行います。当教会の入門講座（全15講座）は毎日開催されるなど、かなり充実しています。

信徒養成講座は、洗礼後の信徒が、聖書の教えをより深く学ぶ場です。神のみ言葉は一生をかけて学ぶ価値のあるものです。一信徒一講座で、教会につながりましょう。参加可能な講座と新設講座をご紹介しますが、開催日などは、チラシやポスター掲示、教会ウェブサイトでご確認ください。

信徒による
日曜講座

信徒による月に一度の講座です。今年「ヨハネによ

る福音書」を中心に学んでいきます。今まで学んだこと（秘跡、イエスが告げられた神の国とは、など）を通して使徒たちから受け継いできた信仰とともにある私たちの生き方を、イエス・キリストを通して分かち合いをしながら、より深く学んでいきます。

信徒による

月曜講座

教皇フランシスコの使徒的勧告『福音の喜び』をゼミナール形式で学びます。

シスター品川ヨシ子による

火曜講座

キリスト者の生活は、キリストとともに毎日聖霊に導かれて生きています。ヘンリー・ナウエン『いま、ここに生きる』をともに読み、はつきりと意識的に生きていくことで、人生がもっと充実した毎日が変わって行くことを期待できます。

キリスト教読書会

長町裕司神父の指導の下、カール・ラーナー『キリスト教とは何か』を読んでいます。多少難解であっても、互いに真摯に読み込むことで、キリスト教の正しい理解と深い信仰に導かれること

を目指します。
柴田潔神父による

霊操講座

優れた聖書学者・霊操指導者として知られたカルロ・マリア・マルティーニ枢機卿による『キリストの友となるために』ヨハネ福音書による八日間の霊操を使用し、祈りを深め、信仰と生活の一致を志します。

ボニー・ジエームス神父とアントニオ・ソアレス

神学生による金曜講座

ロザリオの祈り会（司祭のため、召命のための祈りの会）に続き、主日の「聖書と典礼」の勉強会などを行っています。主日の聖書箇所を、深く解説していく中で日常的な信仰生活にどのように活かせるかをともに考えていく講座です。毎月第一・第三金曜日の午後3時に開催されます。どなたでもご参加できます。

ボニー・ジエームス神父

による土曜講座

主日の「聖書と典礼」を読み、講話を聞き、分かち合いを行います。講座内容は右記の金曜講座と同様で、毎月第一土曜日の午前10時半に開催されているこの講座

には、どなたでもご参加できます。
シスター品川ヨシ子による

「聖書と絵画で祈る会」

2026年度は救いの歴史を巡って、聖書と宗教画を使って、祈りを深め、分かち合いをします。信徒に限らず、洗礼を受けていない方もご参加できます。

岩島忠彦神父による

「信徒の月例会」

信徒の方々が信仰の教えに対する理解をさらに深めるための月に一度の講話です。2026年度はマタイ福音書25章からルカ福音書を読みます。参加条件はありませんので、どなたでもご参加できます。講話に引き続き、主聖堂で主日のミサを行います。

マヌエル・シルゴ神父の

霊操講座

「聖イグナチオの霊操」の流れにそって祈り、神との出会いを求める体験です。6か月間（10月～3月）を通して、①日常生活の祈りと振り返り（自宅で記録）、②月一回の同伴者との個別面談（Zoomまたは対面）、③月一回の黙想者、同伴者の集い（Zoomまたは対面）の全て

に毎回参加できることが参加資格です。2026年度の開始時期は7月です。
信徒による

宣教「パウロ会」

教会、聖書、教えをよりよく知ることで、日常生活の中で自然と、愛と恵みの味わいを深めていくための講座です。主日の「聖書と典礼」をともに読んで、み言葉を味わい、どんな言葉に心がひかれたのか、分かち合います（発言は義務ではありません）。月に2回程度、Zoomと対面のハイブリッドで行います。

森見太郎神父による

「青年向けキリスト教

講座」(新設講座)

18〜35歳くらいまでの青年（受洗・未受洗問わず）を対象に、第2・第4日曜日の月2回実施。第2週は聖書におけるイエスの生き方や教会に関する知識、典礼や秘跡などをカテキズムに基づき学びます。第4週は聖イグナチオの霊性を基に現代社会を観察し、信仰に基づき生き方を模索します。毎回、振り返りの時間を設け、イエスとの親交を深めつつ進めます。

教会行事

2月の主な教会行事をご紹介します。

●灰の水曜日

2月18日(水)7時、12時と19時からの3回に分けて主聖堂で行われ、参加者は全体で約1700人でした。また15時からのベトナム語ミサは1000人。翌週の主日の英語ミサのなかでも灰の式が執り行われました。

19時のミサで関根悦雄神父は「イエスは神の国の宣教を行う前に、40日間荒野で悪魔からの誘惑を受け、それを退け、宣教者としての基本的姿勢を確認しました。私たちも、この四旬節中にはしばしば神に立ち返り、

神の子としてふさわしく生きることができるよう努めてまいりましょう。

また今日の福音(マタイ6:1〜6、16〜18)にあるように、すべての行いは他人に見せびらかすためではなく、それが神のみ旨、み心だから行うということができるよう努めましょう」と話されました。その後、希望する参列者は額に灰を受け、回心して福音を信じるよう呼びかけられました。

●十字架の道行

2月20日〜3月27日の毎金曜日、18時45分からマリヤ聖堂で(4月3日は15時から主聖堂で)行われました。

第1留から第14留まで、先唱者を中心に十字架が1つの留に止まるごとに、集まった会衆全員で祈りを唱えながら進みました。

今年も『十字架の道行』(カトリック中央協議会編)を使って静寂のなかで復活の神秘を黙想しました。

●洗礼志願式

2月22日(日)10時のミサで、高祖敏明主任司祭主司式のもと洗礼志願式が行わ

れました。洗礼志願者2名の方が、当日の感想と洗礼に向けての思いを寄せてくださいました。

人生を信仰とともに

幼少期よりミッションスクールで育った私にとって、神さまは常に傍らにいてくださる身近な存在でした。これからの人生を信仰とともに歩みたいと願った時、聖書の「天の下の出来事にはすべて定められた時がある」(コヘレト3:1)の一節が深く心に響き、私にとって今がその時期であることを確信して受洗を希望しました。

高祖神父様の司式による洗礼志願式では、多くの共同体の皆さまが見守ってくださいました。額に十字の油をいただいた時に神さまの導きを実感し、身の引き締まる思いがいたしました。四旬節の日々を信仰を深める準備の期間とし、復活祭の洗礼式を喜びをもって迎えたいと願っています。

志願式を終えて

信仰の背景のない私が教会に通うようになったきっかけは、息子が聖歌隊に入ったことでした。聖歌隊とともに過ごす日々の中で、なぜか涙が流れ、心が静かに癒されていきました。思う通りにしようともがくほど遠ざかるように感じる中で、神さまに自分を委ねた時、ふと心が軽くなる体験を重ねてきました。

洗礼志願式のミサで祈りをともし、司祭と握手を交わした時、そして、ふと隣を見ると、息子のつながりを通して出会い、神さまへと導いてくれた友の温かい笑顔があり、私は一人ではないのだと深い安心に包まれました。まだ迷いながらも神さまに委ねつつ、祈りの中で歩んでいきたいと思えます。

(Y・O)

タラ友の会 活動報告

「タラ友の会」は、フィリピンの貧しい子どもたちの教育と生活を支援しています。皆さまからの寄付金をフィリピンに送金し、愛徳カルメル修道会のシスターの方が子どもたちの世話をしています。資金を管理する財団の年次総会に合わせて、毎年タラ友の会のメンバーが現地を訪れていて、昨年11月の訪問の様をお伝えいたします。

今回は、担当司祭である

ボニー・ジエームス神父をはじめ4名でフィリピンを訪問しました。ケソンの修道院を拠点として、最初にタガイタイの施設を訪れました。この施設には、いろいろな事情で家族の元で暮らすことができない7名が入居しています。シスターの目標は、子どもたちを家庭に戻し、そこで成長させることです。資金難で修道院の車を売ったため、現地には公共交通機関を乗り継いで向かいます。



支援先のひとつで6月に閉園になったばかりのパンガラップの幼稚園にも訪問しました。周辺の土地の所有者と住民との間で再開発のトラブルがあり、これが閉鎖の要因となりました。周囲は立ち入り禁止ですが、地元出身のドライバーのおかげで封鎖地域の中

た。

子どもたちが学校から戻ってきて、夕方から歓迎会があり、一緒にダンスをして、夕食をいただき、日本からのお土産を配りました。子どもたちの笑顔を見ると、こちらもうれしくなります。

これまでの歩みを訪ねて

支援先のひとつで6月に閉園になったばかりのパンガラップの幼稚園にも訪問しました。周辺の土地の所有者と住民との間で再開発のトラブルがあり、これが閉鎖の要因となりました。

まで入ることができました。このタクシーは、パンガラップ出身でタラ友の会の支援で学校を出た女性が所有し、地元の人をドライバーとして雇って支えています。支援の輪のつながりが見られるのはうれしいです。幼稚園の部屋にまだ沢山あった文房具は、他の施設で使うためにシスターが持ち帰りました。

幼稚園を後にして、タラにある病院のハンセン病棟へ向かいました。タラのハンセン病患者への援助が、「タラ友の会」の始まりであり、名前の由来です。40年前、タラ友の会の援助でハンセン病棟を建て、シスター方も看護師の資格を取って長年にわたり患者たちの面倒を見てきました。その後、国へ移管されたため、現在はタラ友の会からの支援はしていません。ハンセン病棟では、約30人の患者が暮らしていました。

奨学生からの手紙

ボニー神父がピカワヤン、レニボンを訪問しました。宗教や部族を巡って現在も不安が続く地域であるため、タラの友の会が訪れるのは10年以上振りです。ピカワヤ

ンの施設では、近辺の貧しい村々から男女13人の子どもたちが生活し、近くの小学校に通っています。自宅からでは学校が遠すぎて通えないためです。

タラの友の会が訪問するのは本当に久しぶりだったということ、今は社会に出て働いているかつての奨学生たちが、ピカワヤンにある修道院に集まりました。そして、日本の皆さんへの手紙を準備してくれました。

「感謝の念を抱く奨学生を代表し、聖イグナチオ教会の寛大な支援者の皆さまへ。愛徳カルメル修道会を通じての支援、厚意、そして教

育への尽力に、心より感謝します。皆さまは希望と自信、尊厳をもって夢を追い求める機会という扉を、私たちに開いてくださいました。皆さまの支援は、単に経済的負担を軽減するだけでなく、優れた人間を目指し、成熟したプロフェッショナルとなるよう私たちが奮い立たせてくれます。私たちの可能性と未来への努力を信じてくださったことに感謝いたします。どうかこの厚意が百倍になってお返しされ、神さまの豊かな祝福がこれからも絶えることなくありますように。

タラ友の会の長年の支援がもたらした、多くの実りを実感した訪問でした。

タラ友の会では、寄付を、いつでもいくらでも、ありがたくお受けいたします。

●郵便振替 00150-4-62691

「タラ友の会」

●銀行振込 みずほ銀行四谷支店

普通1735286「聖イグナチオ教会タラ友の会」

●現金納入 教会事務室に直接お持ちください
主聖堂の後方に献金箱もあります



Family of St. Ignatius

～英語圏から～

祭壇奉仕者向け養成活動

2月28日、12時の英語ミサの祭壇奉仕者を対象とした半日の「交流会」が開催されました。目的は奉仕者同士の絆を深め、奉仕チームへの帰属意識を高め、奉仕への自信を育むことでした。集いではゲームやチームビルディング、祭壇奉仕者の基本動作の確認が行われました。祭壇奉仕者チームに新たに2名の若者が加わりました。ナイジェリア出身の聖体奉仕者と、

インドネシア出身の SIIYM リーダー、です。二人は2025年末に逝去されたの
後任として迎えられました。バングラデシュ出身でイエズス会の
もチームの一員です。チームの責任者はサモア出身の
が務めています。麹町教会の創立100周年を控え、教会の将来を担う次世代の育成を重視することが不可欠だと考えています。現在、約20名の祭壇奉仕者が活動しており、そのほとんどがさまざまな国籍の10代です。ほぼ全員が当教会の日曜学校出身者です。
(シスター フロール・フロレセ イエズス孝女会)

●宣教司牧評議会からのお知らせ● (3月5日開催)

- ・2026年度教会テーマの英語とベトナム語の表記が承認されました。スペイン語、インドネシア語、ポーランド語、ポルトガル語の表記については、今後それぞれの共同体で検討し、確定いただきます。
- ・教会正門右側の掲示板に案内のQRコードが「聖イグナチオ教会オンラインガイドブック」として掲示されています。
- ・10月4日(日)に諸言語サンデースクールファミリーデーを予定しています。それぞれの教会学校が一堂に会する初めての集まりです。
- ・「2026年度信徒評議員」と「麹町教会100周年プラン策定委員会(略称:100周年プラン)」「(任期2年)の設置が承認され、以下の委員でそれぞれ発足しました。(敬称略)

●協力司祭●

4月から作道宗三神父が、協力司祭として山口県の細江教会から着任されました。よろしくお願いたします。

●聖体授与の臨時の奉仕者任命●

東京大司教区では毎年、菊地功枢機卿により「聖体授与の臨時の奉仕者」が任命されます。今年、当教会では新たに以下の8名が任命されました。

*再任者38名と外国語圏任命者18名の奉仕者を合わせ計64名が、1年間ともに奉仕いたします。任期は2026年復活の主日である4月5日から2027年の復活の主日の前日である3月27日までです。

●ベルマーク500万点達成●

日頃よりベルマークの収集にご協力いただきありがとうございます。このたび富士聖ヨハネ学園より、集票累計点数が500万点を超えたとのうれしいお知らせをいただきました。ベルマークは1点が1円に換算されますので、長い年月をかけて500万円分のご寄付ができたこととなります。学園ではベルマークの点数を活用し、パソコンや車椅子、行事用の TENT 等を購入なさったそうです。皆さまのご協力の賜物と、心より感謝申し上げます。

●献血の報告●

3月1日(日)に、4回目となる日本赤十字社による献血を、ヨセフホールで行いました。はじめてお越しいただいた32名を含め、101名(前回112名)に来場いただき、目標の80名にほぼ到達する79名(前回94名)から献血いただきました。献血にご協力くださった皆さまに感謝いたします。次回は9月20日(日)を予定していますので、ご参加をお待ちしています。

訃報 シスター マルセラ ロサス モラレス

3月11日(水)に帰天されました。74歳。葬儀は3月13日(金)、御聖体の宣教クララ修道会修道院で執り行われました。シスター マルセラは2024年4月から聖イグナチオ教会でスペイン語圏の方々のお世話を「セントロ ロソラ」で霊的導き、支援などをされていきました。気さくなお人柄で教会の信徒の中に入られ、国籍を越えて多くの方々と交流されていきました。

略歴
1952年1月16日 メキシコのプエブラに生まれる
1969年12月12日 御聖体の宣教クララ修道会入会
1972年6月22日 初誓願
1974年7月18日 来日
1979年12月2日 終生誓願
2026年3月11日 帰天



4月の典礼と行事

最新情報は聖イグナチオ教会ホームページでご確認ください。

2 (木) 聖木曜日 (主の晩餐)	19:00	聖香油のミサ (10:30 カテドラル)
3 (金) 聖金曜日 (主の受難) 大斎・小斎	19:00	十字架の道行 15:00 (主聖堂) 聖地のための献金
4 (土) 聖土曜日 (復活徹夜祭)	19:00 (洗礼式)	
5 (日) 復活の主日	聖体奉仕者任命式 10:00 ミサ 洗礼式 15:30 ミサ ミサ後お祝い会 ヨセフホール	
8 (水)	傾聴ルーム 11:15 ~ 15:00 ヨセフホール	水曜ティーサロン 12:00 ミサ後
12 (日) 復活節第2主日 (神のいつくしみの主日)	初聖体 10:00 ミサ ミサ後お祝い会 ヨセフホール 教会案内ツアー ① 10:30 ② 11:00 受付 9:30 ~	
15 (水)	クリプタに安置され4月に命日を迎える方々のためのミサ 12:00	
17 (金)	聖イグナチオ教会献堂記念日 (77周年)	
19 (日) 復活節第3主日	改宗式 10:00 ミサ 堅信準備会① 11:15 ヨセフホール	
22 (水)	傾聴ルーム 11:15 ~ 15:00 ヨセフホール 堅信準備会 (平日①) 18:45 ヨセフホール	水曜ティーサロン 12:00 ミサ後
26 (日) 復活節第4主日	歓送迎会 10:00 ミサ後 ヨセフホール	世界召命祈願の日

マジス 5月号は5月3日(日)発行予定です。

主任司祭：高祖 敏明

助任司祭：ボニー・ジェームス
グエン・タン・ニャー
サトルニノ・オチョア
柴田 潔協力司祭：ジェリー・クスマノ
ハビエル・ガラルダ
グエン・ヴァン・テー
関根 悦雄
マヌエル・シルゴ
作道 宗三神学生：アントニオ・マリオ・ダ・
コスタ・ソアレスシスター：フロール・フロレセ
ジェスリン・ブエンディア
ディン・グエン・ゴック・
トウエン

ミサ参加方法はホームページ、教会事務室で確認してください。

ミサの時間

【平日】主聖堂

7:00/12:00/18:00

【土、日曜日】主聖堂

土曜 18:00/19:30 (ベトナム語)

日曜 7:00/8:30/10:00/18:00

12:00 (英語) /13:30 (スペイン語) /

15:00 (ベトナム語)

【土曜日】マリア聖堂

17:30 (英語)

【月の第1日曜日】マリア聖堂

12:30 (ポルトガル語) /16:00 (ポーランド語)

【月の第2・4日曜日】マリア聖堂

16:30 (インドネシア語)

『マジス』へのご意見ご要望などのお便りは事務室までお寄せください。

カトリック麹町教会
(聖イグナチオ教会)

〒102 - 0083

千代田区麹町 6 - 5 - 1

TEL 03 - 3263 - 4584

FAX 03 - 3263 - 4585

<http://www.ignatius.gr.jp>Linktree (リンクツリー)
リンクツリー (linktree) とは多
数のリンクをまとめて表示して
いるツールのことです。このQR
コードを読み取ると教会ホーム
ページ、教会ガイド、Twitter、
Facebook、Instagram、
YouTubeへアクセスできます。